

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人宮崎大学

1 全体評価

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、学際的な生命科学の創造及び地球環境の保全のための科学を志向した教育研究に取り組み、グローバル社会において地域・日本・世界を牽引できる人材を育成することを目指している。第3期中期目標期間においては、「異分野融合を軸に『地の利、人の利』を活かした教育研究等の推進」や「地域と共に興す『新たに光る宮崎ブランド』の確立と発信」に取り組み、地域活性化の拠点として、また、特色ある学術研究を宮崎から世界へ発信する拠点としての機能を一層強化することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、大学の研究成果を活用して県内の河川の浄化を進めるとともに、「宮崎大学地域教育プログラム」の資格を地元企業での就職活動時に利用できるようにするなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 「地域活性化・学生マイスター」及び「みやざきCOC+産業人材認定証」の両資格を「宮崎大学地域教育プログラム」として位置付け、両資格のメリットや難易度を分かりやすく説明するウェブサイトを作成するなど利用拡大に向け周知徹底を図るとともに、県内企業の採用におけるエントリーシートや一次面接免除等の優遇及び公務員専門学校が開設する公務員講座の受講料減免制度を設定するなど、資格取得者へのインセンティブを設けている。（ユニット「地域と共に興す『新たに光る宮崎ブランド』の確立と発信」に関する取組）
- 大学として重点的に推進する生命科学分野の20プロジェクトからイノベーションにつながる研究活動を支援するため、戦略重点経費を学内で公募し、20プロジェクトから継続分の2研究テーマを含む6研究テーマを採択し、重点的に支援を行っている。平成30年度の研究成果は、論文206件、学術関係受賞18件となっている。（ユニット「異分野融合を軸とした本学の強みを生かす生命科学分野での研究推進及び人材養成の国際拠点の形成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○				
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 若手教員の雇用促進

科学技術振興機構（JST）の「テニュアトラック普及・定着事業」を活用し、長期的テニュアトラック教員採用計画について各部局で協議の上、若手教員の採用を行っており、平成30年度においても、同制度を利用し、若手教員を2名採用している。その他、外部資金も活用することで、平成31年3月末現在では若手教員は128名（若手教員比率は19.2%）となっており、中期計画で設定している13.4%を上回る結果となっている。

○ 女性教職員の登用促進

自然科学系分野における女性教授が少ない状況を踏まえ、「女性教員の上位職への登用のためのポジティブアクション（アテナプラン）」に基づき、女性の登用を進めることで、自然科学系の学部すべてに女性教授が在籍している。平成30年度においては、役員等管理的立場にある女性教員数は3名（中期計画3名以上）、各部局における女性管理職（副学部長、副病院長、附属学校園長等）の人数は6名、事務系管理職の女性比率については、課長職3名及び次長職7名の17.2%（中期計画12%）であり、いずれも中期計画に掲げる目標値を達成できている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の有効活用 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 研究成果の地域への還元

平成30年4月に宮崎県えびの市硫黄山噴火により起こった長江川の白濁、酸性化に対応するため、全学部の関連分野の教員からなる「硫黄山地域環境資源保全調査・対策チーム」を全学組織として発足させ、噴火後の様々な調査や技術指導、復興活動等に貢献している。宮崎県の委託を受けて、水処理や沈殿物の処理等に係る調査と水質改善の実地試験を行い、石灰石の投入によって、酸性化した水が中和され著しく水質が改善されるとともに、有害物質の除去に効果があることを明らかにしており、その結果、宮崎県は、河川への石灰石の投入を決定している。

○ 留学生等への日本語教育及び日本での就職支援に関する取組

高度外国人材の国内就業支援パイロットモデルの構築を目的に、国際協力機構（JICA）、ICT企業、宮崎市と連携し、バングラデシュのICT人材を対象とした産学官連携事業を立ち上げ、平成30年度は宮崎、日本のIT企業への就職希望者を対象とした短期留学プログラム「日本語×ITインターンシッププログラム」を開講し、4月と10月にバングラデシュのICT技術者20名が留学している。「実践日本語演習」や「ITインターンシップ」等のビジネス向けのクラスを開講し、留学生の日本語学習及び宮崎市内企業でのインターンシップを支援しており、この結果、16名が宮崎市又は宮崎県内企業に就職し、4名が県外企業に就職している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 地域医療・総合診療医学講座を中心とした地域医療教育

指定管理を行っている宮崎市立田野病院及び介護老人保健施設さざんか苑を活用した医学科生の地域医療実習や、医学科及び看護学科の学生が合同で交流する「医学生看護学生ごちゃまぜ実習」、多職種学生（看護・リハビリ・介護・医療事務等）181名を学外から受け入れた多職種連携教育実習などの取組を行い、一般社団法人日本医学教育評価機構が平成30年度に実施した医学教育分野別評価においても、特記すべきいい点として高く評価されている。

（診療面）

○ 医療安全確保に向けた取組

医療安全に関する3つのタスクフォース（①VTE [静脈血栓塞栓症のモニタリング]、②電子カルテ変更に伴う指示だし指示受け、③NoERR [診療情報共有伝達確認室]）を発足している。また、医療安全に関する職員研修では、e-learning教材を作成し、病院職員1,407名が受講するなど医療安全の質の向上に取り組んでいる。

(運営面)

○ 附属病院の経営改善の取組

「経営改善プロジェクト行動計画」を毎年度策定し、毎月、執行部会議で進捗状況を確認するPDCAサイクルを実行しており、平成30年度は査定減の縮小、経費節減策等を重点項目とし、査定分析を基に各診療科と勉強会の実施や、新たに病院長ヒアリングを実施し、各診療科に経営改善策のフィードバック等を実施している。

